

科目区分	専門基礎分野	授業科目	病態治療論Ⅲ
講師名	医療センター医師	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 後期
<p>目的： 脳神経系・骨筋系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。</p> <p>目標： 1) 脳神経疾患・運動器疾患の主な症状と病態生理について理解できる。 2) 脳神経疾患・運動器疾患に関連する検査・治療・処置について理解できる。 3) 主な脳神経疾患・運動器疾患の病態生理・症状・治療について理解できる。</p>			
回	時間	講義内容	
1	2	疾患の理解	アルツハイマー病とその他の認知症 脳・神経の変性疾患(パーキンソン病、 脊髄小脳変性症)
2	2	神経内科総論 疾患の理解	神経内科総論 診察法・検査法 脊髄脊椎疾患(神経症候学に関連して)・多発性硬化症 意識障害の分類・評価について
3	2	疾患の理解	多発性筋炎 神経・筋疾患(重症筋無力症、筋ジストロフィー)
4	2	疾患の理解	末梢神経障害(多発性ニューロパチー) 神経・筋疾患(筋萎縮性側索硬化症)
5	2	症状とその病態生理	脳・神経障害とは おもな症状とその病態生理(意識障害、 高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、 反射性運動の障害、頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア)
6	2	検査・診断と治療・処置	診断と診療の流れ 神経学的診察、補助的検査法 治療・処置 ①外科的治療法 外科手術・脳血管内手術 ②内科的治療法
7	2	疾患の理解	脳疾患 (くも膜下出血・脳動脈瘤・脳梗塞・頭部外傷・脳腫瘍)

			脳血管障害の危険因子、NINS 分類 頭痛、てんかん
8	2	症状とその病態生理	運動器の症状とその病態生理 疼痛（侵害受容性、神経因性、心因性） 奇形と変形、関節拘縮、神経障害、運動麻痺
9	2	運動器の診断と検査法	診察・診断の流れ（肢位または姿勢、計測） 検査（X線検査、MRI、超音波検査）
10	2	運動器の治療と処置	保存療法（ギプス包帯法、絆創膏包帯法、副子法、牽引、関節穿刺法） 理学療法と作業療法 手術療法 義肢と装具
11	2	疾患の理解	外傷性（外因性）の運動器疾患 骨折（概要、原因による分類、骨折の転位） 脱臼、捻挫および打撲、神経の損傷、筋・腱・靭帯などの損傷
12	2	疾患の理解	内因性（非外傷性）の運動器疾患 先天性筋性斜頸、先天性股関節脱臼 変形性関節症、関節リウマチ
13	2	疾患の理解	内因性（非外傷性）の運動器疾患 骨・関節の炎症性疾患 （骨髄炎、化膿性関節炎、変形性関節症、関節リウマチ）
14	2	疾患の理解	良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍 上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患（腰椎間板ヘルニア） 下肢および下肢帯の疾患
15	2	単位認定試験	筆記試験
講義方法		講義	
評価方法		単位認定試験	
テキスト		医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩運動器	
備考			

